

SYLLABUS (前期)

授業科目	ビジネスマナーⅡ		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			
実務経験内容								
教育目標	社会人、企業人としての心得・礼儀作法、マナーについて学ぶ。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	仕事に対する基本姿勢①		組織人として重要な心構え 顧客意識・品質意識・納期意識・協調意識					
2	仕事に対する基本姿勢②		目標意識・改善意識・コスト意識・時間意識 合理的な仕事の進め方					
3	仕事への取り組み①		正確かつ計画的に 1日の計画表の立て方					
4	仕事への取り組み②		仕事のマニュアル化とマニュアル化の意味 スケジュール管理に不可欠なツール					
5	仕事への取り組み③		仕事は効率を考えて処理する 仕事の能率を上げるための身の整理					
6	社会のルールと勤務条件①		就業規則と職場のルール 勤務条件と労働法とのかかわり					
7	社会のルールと勤務条件②		給与の支払い形態と差引支給額					
8	仕事とIT		パソコンは日常生活に不可欠なツール ネットワークと電子メールの活用、パソコン使用上のルール					
9	ビジネス文書の基本		ビジネス活動に欠かすことのできないビジネス文書 ビジネス文書を作成する際のポイント					
10	社内文書の種類と役割①		社内文書の特色と役割 日常勤務に関する届けや身上の届は書式に従う					
11	社内文書の種類と役割②		伝達文書は社内文書の中でも重要な役割 職種や状況に応じて各種の報告書を作成					
12	社外文書の種類と役割①		会社を代表して書いているという自覚 社外文書として社交・儀礼の文書がある					
13	社外文書の種類と役割②		社外文書の形式					
14	社外文書の種類と役割③		頭語と結語は対応する 時候のあいさつで季節感を添える					
15	社外文書の種類と役割④		前文・末文のあいさつことば 封筒・便箋の書き方・使い方と郵便以外の発送・通信サービス					
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書								

SYLLABUS (前期)

授業科目	環境工学		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築環境を構成する要因を理解し、快適で健康的な居住空間を構築する手法を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	気象、気候について		気温、湿度、風（海風と陸風）等について説明し、理解させる。					
2	室内気候について		温熱要素と快適指標等について説明し、理解させる。					
3	換気と通風について		自然換気（風力換気と重力換気）及び通風の目的等について説明し、理解させる。					
4	換気と通風について		機械換気（第1種から第3種機械換気法）について説明し、理解させる。					
5	換気と通風について		必要換気量、及び換気回数の求め方について説明し、演習問題を解かせ理解させる。					
6	都市環境について		ヒートアイランド現象、地球温暖化、オゾン層破壊等について説明し、理解させる。					
7	伝熱理論について		熱の伝わり方（伝導、対流、放射）等について説明し理解させる。					
8	壁体の熱の伝わり方について		熱伝達、熱伝導、熱貫流及び比重、結露と熱伝導率の関係について説明し理解させる。					
9	壁体の熱の伝わり方について		熱伝導抵抗と熱貫流率の求め方について説明し、演習問題を解かせて理解させる。					
10	壁体の熱の伝わり方について		熱貫流抵抗と熱貫流量の求め方について説明し、演習問題を解かせて理解させる。					
11	結露について		結露現象の起こる原因を説明し理解させる。					
12	空気線図について		空気線図（相対湿度、絶対湿度、乾球温度、湿球温度）等について説明し、また、空気線図の読み方を説明し、演習問題を解かせて理解させる。					
13	結露の防止方法について		どのような防止方法があるのか説明し、理解させる。					
14	表面結露と内部結露及び断熱について		それぞれの結露の特徴について、及び中空層における断熱効果と熱要領と室温変動について説明し、理解させる。					
15	表面結露と内部結露及び断熱について		それぞれの結露の特徴について、及び中空層における断熱効果と熱要領と室温変動について説明し、理解させる。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		初学者の建築講座建築環境工学						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築設備		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	快適な居住空間等を構築するために、必要な各種の設備について原理、構造等を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	第1章 建築設備概論 1・1 建築設備とは		①自己紹介 ②建築設備とは ③建築設備の役割 ④建築設備の種類と構成 ⑤建築計画と設備計画の関わり					
2	1・2 地球環境と建築設備		①地球環境問題と建築設備 ②建物と省エネルギー ③建築設備と維持管理 ④サステナブル建築と地球環境・建築憲章 ⑤C A S B E E ⑥小問題					
3	第2章 給排水衛生設備論 2・1 給排水衛生設備とは		①給排水衛生設備の概要 ②給排水衛生設備の役割 ③給排水衛生設備の構成 ④事務所ビル設備の概要 ⑤戸建住宅の設備概要 ⑥集合住宅の設備概要					
4	2・2 給水設備(1)		①水道施設と水道の種類 ②上水道事業と簡易水道事業 ③水道水の水質 ④水道直結方式 ⑤高置水槽方式 ⑥ポンプ直送方式 ⑦圧力水槽方式					
5	2・2 給水設備(2)		①使用水量と給水圧力 ②建物用途別の設計用使用量 ③給水管の管径 ④各種給水器具の必要圧力 ⑤ウォーターハンマと防止装置 ⑥小問題					
6	2・2 給水設備(3)		①上水の汚水と防止対策 ②クロスコネクション ③吐水口空間 ④バキュームブレーカー ④貯水槽の六面点検 ⑤給水配管材料					
7	2・3 給湯設備		①湯の性質 ②給湯温度と使用温度 ③給湯量と給湯流量 ④給湯方式 ⑤機器と配管材料 ⑥太陽熱利用給湯設備 ⑦給湯機 ⑧小問題					
8	2・4 ガス設備		①ガスの種類と性質 ②供給方式と配管方法 ③ガス機器と給排気 ④ガス配管材料 ⑤バイオマスとエネルギー利用 ⑥小問題					
9	2・5 排水・通気設備(1)		①排水・通気設備の目的 ②排水の種類と排水方式 ③トラップの機能と種類 ④トラップの破封原因と防止対策 ⑤排水配管の種類と役割					
10	2・5 排水・通気設備(2)		①通気方式 ②間接排水 ③雨水排水設備 ④排水配管材料 ⑤トラップますと雨水ます ⑥ルーフドレーン ⑦小問題					
11	2・6 排水処理設備		①排水処理設備とは ②汚染度の評価手法 ③排水処理方法の分類特徴 ④浄化槽の性能と容量算定 ⑤浄化槽の性能 ⑥雨水・排水再利用施設					
12	2・7 衛生器具設備		①衛生器具の概要 ②水受け容器 ③給水器具（給水栓・シャワー） ④衛生器具の設置計画 ⑤設備ユニット ⑥小問題					
13	2・8 消火設備(1)		①消火設備の基本事項 ②消火器 ③屋内消火栓設備 ④屋外消火栓設備 ⑤連結送水設備と連結散水設備					
14	2・8 消火設備(2)		①不活性ガス消火設備 ②ハロゲン化物消火設備 ③粉末消火設備 ④泡消火設備 ⑤水噴霧消火設備 ⑥ドレンチャ設備 ⑦小問題					
15	演習問題		以上を踏まえ、理解度をチェックするために演習問題を行う。					
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書		初学者の建築講座建築設備、詳解 建築士 過去7年 問題集						

SYLLABUS (前期)

授業科目	鉄筋コンクリート構造	年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	鉄筋コンクリート構造の特徴と使用材料の性質を理解し、安全で耐震性を有する建築物を構築するための、構造設計の基礎を習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	鉄筋コンクリート構造の概略 使用材料の特徴と必要条件 （1）	鉄筋コンクリート構造の概略、構造設計に必要な課題、鉄筋コンクリート構造の歴史、RC規準の性能設計の考え方と適用範囲について説明する。					
2	使用材料の特徴と必要条件 （2）	コンクリートの材料、鉄筋の材料、材料の高強度化、フレッシュコンクリート、硬化コンクリート、クリープなどについて説明する。					
3	使用材料の特徴と必要条件 （3）	許容応力度設計法、コンクリートの許容応力度、鉄筋の許容応力度、RC部材の複合材料力学について説明する。					
4	使用材料の特徴と必要条件 （4）	鉄筋コンクリート構造の劣化について説明する。使用材料と必要条件の例題の解説を行い、その後演習問題を行い理解力の確認及び理解力を深める。					
5	梁の設計（1）	梁の機能と要求される性能、RC梁の荷重変形関係、単筋梁の断面算定について説明する。					
6	梁の設計（2）	複筋梁の断面算定、T型梁、RC梁の設計、終局曲げモーメント、構造規定について説明する。					
7	梁の設計（3）	配筋上の注意事項、RC梁の設計推奨条件について説明する。梁の設計例題の解説を行い、その後演習問題を行い理解力の確認及び理解力を深める。					
8	柱の設計（1）	部材の機能と要求される性能、無筋コンクリート柱の圧縮曲げ特性、長方形鉄筋コンクリート柱の断面算定について説明する。					
9	柱の設計（2）	RC柱の断面算定手順を説明し、断面算定手順に沿って、例題を解説する。その後、演習問題を行い理解力の確認及び理解力を深める。					
10	柱の設計（3）	終局耐力、2軸曲げを受ける場合、長柱の圧縮耐力、柱の軸方向力に対する横補強筋の影響について説明する。					
11	柱の設計（4）	柱の構造規定について説明する。柱の設計例題の解説を行い、その後演習問題を行い理解力の確認及び理解力を深める。					
12	せん断を受ける梁、柱の設計 （1）	部材の機能と要求される性能、せん断破壊、せん断補強筋の増量効果、せん断ひび割れ発生メカニズムについて説明する。					
13	せん断を受ける梁、柱の設計 （2）	許容応力度設計及び終局強度、せん断抵抗機構、せん断補強筋比、梁のせん断設計、柱のせん断設計、ひび割れ強度及び終局せん断強度について説明する。					
14	せん断を受ける梁、柱の設計 （3）	梁のせん断補強筋及び柱のせん断補強筋の構造規定、有孔梁について説明する。設計用せん断力の求め方の例題の解説を行い、その後演習問題を行い理解力の確認、及び理解力を深める。					
15	総合演習問題	1～14回までに關する総合能力の達成度の確認及び補足のための演習問題を行う。					
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	RC規準による鉄筋コンクリート構造設計、図説 やさしい建築一般構造						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築材料		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物に使用される材料の製法、特性、加工法、使用法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	序 章 建築材料とは		①自己紹介 ②建築材料の目的 ③建築材料の分類 ④建築材料の性能と性質 ⑤建築材料の選択 ⑥建築材料の生産と開発					
2	第1篇 構造用材料 第1章 木 材 1・1 木材の使われ方		①木材の特徴 ②木質構造の分類 ③木材の使われ方 ④木材の種類と特徴 ⑤木材資源の現状と将来 ⑥小問題					
3	1・2 建築用木材の性質		①製材 ②材形と寸法 ③欠点及び等級 ④乾燥 ⑤木材の性質 ⑥含水率と変形 ⑦収縮率 ⑧密度・強度 ⑨耐久性 ⑩木材の保護					
4	1・3 木質系材料		①木質材料の種類と製造方法 ②集成材 ③合板 ④構造用パネル⑤繊維版 ⑥その他 ⑦木材の活用における温暖化防止 ⑧小問題					
5	第2章 構造用金属材料 2・1 鋼 材		①鉄の使われ方 ②鉄の種類 ③製鉄 ④鋼の性質 ⑤構造用鋼材の種類と特徴 ⑥合金鋼 ⑦構造用金物 ⑧小問題					
6	2・2 アルミニウムと合金		①アルミニウムの性質と使われ方 ②アルミニウムの製法 ③アルミニウム合金の種類と特徴 ④アルミニウム製品 ⑤小問題					
7	2・3 金属の腐食と防止		①金属の腐食について ②金属の防食法について ③小問題					
8	第3章 コンクリート 3・1 コンクリートの発達		①コンクリートの発達と利用 ②コンクリートの長所と短所 ③古代・近代コンクリート ④現代のコンクリート ⑤小問題					
9	3・2 コンクリートの基本的性質		①フレッシュ性状（単位水量・ブリーディング・スランプ試験・空気量） ②硬化後の力学性状（養生・強度・ヤング係数） ③高性能コンクリート					
10	3・3 コンクリートの構成材料の性質		①セメントの分類と概要 ②骨材の分離と概要（細骨材・粗骨材・粗粒率） ③混和材の分類と概要 ④混和剤の種類と概要 ⑤アルカリ骨材反応					
11	3・4 コンクリートの調合設計		①調合設計の基本的な考え方 ②調合設計の手順 ③調合強度の設計 ④セメントペースト量 ⑤骨材量 ⑥計画調合の表し方 ⑦小問題					
12	3・5 コンクリートの欠陥		①施工不良と初期ひび割れ ②プラスチック収縮ひび割れ ③沈みひび割れ ④拘束による収縮ひび割れの事例 ⑤収縮ひび割れの対策 ⑥小問題					
13	3・6 コンクリートの耐久性		①コンクリートの劣化事例 ②コンクリートの劣化の対策 ③保存工事の事例					
14	3・7 セメント・コンクリート製品		①セメント・コンクリート製品の概要 ②建築用コンクリートブロック ③テラゾ ④軽量気泡コンクリート ⑤プレストレストコンクリート					
15	演習問題		1～14回を踏まえて理解度をチェックする。					
1回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		詳解 建築士 過去7年 問題集、初学者の建築講座 建築材料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築法規Ⅱ		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	実務における基準法及び関連法規の運用について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	道路と敷地		道路の定義、接道義務、壁面線、道路による敷地に対する建築制限及び演習。					
2	用途地域		都市計画法における用途地域指定、各用途地域における建築制限及び演習。					
3	容積率 I		容積の定義、敷地が2以上の用途地域にわたる場合の限度規定及び演習。					
4	容積率 II		住宅の地階部分、共同住宅の廊下、空地率、容積率の緩和規定及び演習。					
5	建ぺい率		建ぺい率の定義、敷地が2以上の用途地域にわたる場合の限度規定、壁面線、防火地域における緩和規定及び演習。					
6	絶対高さ制限		住居地域系における絶対高さ制限の規定、空地率、大規模敷地面積における緩和規定及び演習。					
7	道路斜線制限		道路における建築物の高さ制限、壁面後退、2以上の道路に接する敷地、公園等に面する敷地、天空率における緩和規定及び演習。					
8	隣地斜線制限		敷地が2以上の用途地域にわたる場合の制限、公園等に接する場合、天空率における緩和規定及び演習。					
9	北側斜線制限		北側敷地に対する日照の確保の原則、北側水面等に接する場合、天空率における緩和規定及び演習。					
10	日影規制 I		日影規制の適用範囲と対象建築物及び演習。					
11	日影規制 II		測定方法及び演習。					
12	防火地域		防火地域、準防火地域における建築物の耐火及び防火制限及び演習。					
13	防火地域		防火地域、準防火地域における建築物の耐火及び防火制限及び演習。					
14	総合建設制度		総合設計制度の定義、容積率や高さ規制の緩和及び演習					
15	地区と街区の計画		地区計画の概念と建築協定の適用基準及び演習。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		詳解 建築士 過去7年 問題集、図説やさしい建築法規、建築関係法令集 法令編S、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築施工Ⅱ		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物の工事法や完成、引渡し及びアフターケアなどについて習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	補強コンクリートブロック工事について		ブロックの種類、及び鉄筋の加工、組み立て等について説明し理解させる。					
2	補強コンクリートブロック工事について		コンクリートブロック帳壁、及びブロック塀について説明し理解させる。					
3	木工事について		材料の種類（木材、合板、集成材等）及びそれぞれの特徴について説明し理解させる。					
4	木工事について		在来軸組工法（基礎工事、床組、壁、天井等）について説明し理解させる。					
5	木工事について		在来軸組工法（継ぎ手と仕口、接合金物、筋交い等）について説明し理解させる。					
6	木工事について		枠組み壁工法について軸組工法との違い等について説明し理解させる。					
7	左官工事について		材料、及びセメントモルタル塗り、せっこうプラスター塗り、セルフレベリング材塗り、漆喰塗りについて説明し理解させる。					
8	左官工事について		材料、及びセメントモルタル塗り、せっこうプラスター塗り、セルフレベリング材塗り、漆喰塗りについて説明し理解させる。					
9	防水工事について		材料、及び工法の種類（アスファルト防水、シート防水、改質アスファルト防水、塗膜防水について説明し理解させる。					
10	防水工事について		シーリング材料の種類、及び工法について説明し理解させる。					
11	タイル工事について		タイルの種類と工法の種類（密着張り、改良積み上げ張り、改良圧着張り、その他）について説明し理解させる。					
12	タイル工事について		タイルの種類と工法の種類（密着張り、改良積み上げ張り、改良圧着張り、その他）について説明し理解させる。					
13	塗装工事について		各種、塗料の種類の特徴と適応素地について説明し理解させる。					
14	建具、ガラス工事について		建具の種類（木製建具、樹脂製建具、アルミ製建具、鋼製建具）それぞれの特徴について説明し理解させる。					
15	建具、ガラス工事について		建具の種類（木製建具、樹脂製建具、アルミ製建具、鋼製建具）それぞれの特徴について説明し理解させる。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		詳解 建築士 過去7年 問題集、2級建築施工管理技士 学科テキスト、建築施工テキスト 改訂版、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	構造力学Ⅱ		年次	2 年	前後期	前期	単位	2
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	各種部材の力学的性質、断面性質、部材の変形等について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	たわみ		代表的なたわみの例について説明し理解を深める。					
2	たわみ		片持ち梁たわみ式について説明、及び計算の方法について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
3	たわみ		片持ち梁たわみ式について説明、及び計算の方法について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
4	変形と不静定構造		応力度とひずみ度との関連、及び各部材のヤング係数について説明し、理解を深める。					
5	変形と不静定構造		各種不静定梁の反力と曲げモーメントについて計算の方法について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
6	変形と不静定構造		剛度と剛比について説明し、理解を深める。					
7	変形と不静定構造		分割モーメントと到達モーメントについて説明し、理解を深める。					
8	変形と不静定構造		材端モーメントに関する事項について説明し、理解を深める。					
9	変形と不静定構造		水平力が作用するラーメンの応力、及びその計算の方法について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
10	変形と不静定構造		不静定ラーメンの曲げモーメント、及びその計算の方法について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
11	塑性解析		弾性と塑性について説明し、理解を深める。					
12	塑性解析		不静定構造の崩壊と崩壊荷重について説明、及び崩壊荷重の計算の方法について説明し理解を深める。					
13	部材の設計		曲げ材についての構造計算及び設計法について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
14	部材の設計		引張り材についての構造計算及び設計法について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
15	部材の設計		引張り材についての構造計算及び設計法について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		図説やさしい構造力学、基礎から学ぶ建築構造設計 基本式の理解と活用、ビジュアルハンドブック 必携建築資料、詳解 建築士 過去7年 問題集						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築積算		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築図面その他から各種の経費を算出し、建設費を見積もる方法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	数量積算について		建築数量積算基準、及び計測の単位と数値の端数整理の方法、積算の区分と順序、優先順位等について説明し理解を深める。					
2	数量積算について		土工、地業、コンクリート、型枠等の計測計算法について説明し理解を深める。					
3	数量積算について		鉄筋の数量積算における表示方法、及び計測計算の仕方と計算法について説明し理解を深める。					
4	数量積算について		鉄骨の数量積算における表示方法、及び計測計算の仕方と計算法について説明し理解を深める。					
5	数量積算について		仕上げ材の数量と下地材の範囲、及び計測計算の仕方と計算法について説明し理解を深める。					
6	仮設と諸経費について		仮設の定義、分類、細目、及び仮設資材の損料と機械損料について説明し理解を深める。					
7	仮設と諸経費について		諸経費の概要、及び仮設と諸経費の問題点について説明し理解を深める。					
8	仮設と諸経費について		諸経費の概要、及び仮設と諸経費の問題点について説明し理解を深める。					
9	積算の資料について		市場単価と歩係り単価について説明し理解を深める。					
10	積算の資料について		市場単価と歩係り単価について説明し理解を深める。					
11	積算の資料について		科目別構成比と部分別構成比について説明し理解を深める。					
12	積算の資料について		科目別構成比と部分別構成比について説明し理解を深める。					
13	積算の資料について		部分別による数量分析資料と躯体の数量分析資料について説明し理解を深める。					
14	積算の資料について		部分別による数量分析資料と躯体の数量分析資料について説明し理解を深める。					
15	積算の資料について		建物の形状と床面積、及び事例と分析について説明し理解させる。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		詳解 建築士 過去7年 問題集、基準に基づく建築積算入門						

SYLLABUS (前期)

授業科目	鉄骨構造		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	鉄骨の力学的性質を把握させ、各荷重による応力、変形等の特性を理解し安全で耐震性の高い構造設計の基礎を習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	鉄骨構造の概要		鉄骨構造の特徴、ラーメン・トラス・アーチなどの架構形式、鉄骨骨組の構成などについて説明する。					
2	鋼材（1）		鉄と鋼、化学成分と鋼、鋼材生産・製鉄・製鋼・造塊・鋼片・圧延・連続鋳造などについて説明する。					
3	鋼材（2）		鋼材の性質・機械的性質・高温時の性質・低温時の性質・溶接性・構造用鋼材の材質と形状について説明する。					
4	鉄骨の構造設計（1）		構造設計の概要、鋼材の許容応力度・長期応力に対する許容応力度・短期応力に対する許容応力度・繰り返し応力に対する許容応力度について説明する。					
5	鉄骨の構造設計（2）		たわみの限度、材料定数などについて説明する。鉄骨の構造設計の例題の解説を行い、その後演習問題を行い理解力の確認及び理解力を深める。					
6	引張材の力学（1）		引張材の概要、引張材の検定、並列ボルト配置の場合・偏心引張材の場合などの有効断面積について説明する。					
7	引張材の力学（2）		引張材に対する注意、引張材有孔板の有孔断面積の例題について説明する。その後、演習問題を行い理解力の確認及び理解力を深める。					
8	引張材の力学（3）		引張材の設計例題の解説を行う。その後、演習問題を行い理解力の確認、及び理解力を深める。					
9	圧縮材の力学（1）		圧縮材の概要、単一圧縮材・オイラー座屈・短柱の座屈・許容圧縮応力度と圧縮材の検定、部材の座屈長さ、支点の補剛について説明する。					
10	圧縮材の力学（2）		組立圧縮材・有効細長比・つづり材・組立圧縮材の構成上の注意・局部座屈・板要素の座屈などについて説明する。					
11	圧縮材の力学（3）		細長比の制限、圧縮材の許容圧縮力の例題について説明する。圧縮材の設計例題の解説を行い、その後演習問題を行い理解力の確認及び理解力を深める。					
12	曲げ材の力学（1）		曲げ材の概要、曲げの力学・曲げ応力度・せん断応力度・曲げ材の極限状態について説明する。					
13	曲げ材の力学（2）		横座屈・横座屈現象・一様曲げを受ける梁の横座屈・許容曲げ応力度について説明する。					
14	曲げ材の力学（3）		形鋼梁の検定・幅厚比の検討・曲げ応力度の検定・せん断応力度の検定について説明する。H形鋼梁の曲げ耐力の検定の設計例題の解説を行い、その後演習問題を行い理解力の確認、及び理解力を深める。					
15	総合演習問題		1～14回までに關する総合能力の達成度の確認及び補足のための演習問題を行う。					
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書		詳解 建築士 過去7年 問題集、初めて学ぶ鉄骨構造基礎知識、図説 やさしい建築一般構造						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築士対策講座		年次	2 年	前後期	通年	単位	8
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	2 級建築士受験に必要な重点内容について演習問題を中心に学習させる。							
成績評価の方法・基準	成績は 1 0 0 点満点とし、6 0 点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の 4 段階であり、優（A：1 0 0 点～8 0 点）、良（B：7 9 点～7 0 点）、可（6 9 点～6 0 点）、不可（D：6 0 点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築学（荷重と外力）		構造物に作用する主な荷重と外力の種類とそれに対する安全性の検討方法について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
2	建築学（計画各論）		住宅建築全般について様々な用語等について説明し演習問題を実施、解説により理解を深める。					
3	建築学（構造計画）		構造計画と建築物の安全性の確認及び構造計算の手順（一次設計）について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
4	建築学（計画各論）		商業建築全般の様々な用語等について説明し演習問題を実施、解説により理解を深める。					
5	建築学（計画各論）		学校建築全般の様々な用語等について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
6	建築学（計画各論）		図書館、美術館全般の様々な用語等について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
7	建築学（計画各論）		劇場全般の様々な用語等について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
8	建築学（建築材料）		防水材料、ガラス、塗料、その他、それぞれの特徴について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
9	建築学（計画各論）		医療福祉施設全般の様々な用語等について説明し、演習問題を実施、解説により理解を深める。					
1 0	建築学（計画各論）		各部計画全般の様々な用語等について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
1 1	建築法規 建築基準法 ・建設業法		用語の定義、一般構造規定、手続き、及び建設業の許可、請負契約、施工技術の確保について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
1 2	建築法規 労働基準法 ・労働安全衛生法		労働契約、災害補償、就業制限、賃金、労働時間、休憩、休日、及び安全衛生管理体制について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
1 3	建築法規 その他		騒音振動規制法、産業廃棄物、建設リサイクル法、道路交通法、について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
1 4	設備工事		給排水衛生設備工事、電気・照明設備工事、消火・非難設備工事、空調調和設備工事について説明し、また演習問題を実施、解説により理解を深める。					
1 5	前期期末試験		前期期末試験					
1 回配当時間		4 時間	2 コマ					
使用教科書		詳解 建築士 過去7年 問題集						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築設計製図Ⅱ		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築技術者として必要な、建築物の用途・構造に応じた計画の立案力、設計図面の作成要領等を習熟させ、テーマに沿った自由設計を完成させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	エスキス演習 1		参考課題（木造2階建事務所併用住宅）					
2	作図演習		参考課題（木造2階建事務所併用住宅）、1・2階平面図、矩計図の表現と描き方、及び時間管理と方法。					
3	作図演習		参考課題（木造2階建事務所併用住宅）、立面図と床伏図兼小屋伏図の表現と描き方、及び時間管理と方法。					
4	検討会		作品評価検討会 担当講師による客観的評価と自己評価の差異を認識することを目的とする。					
5	エスキス演習 2		参考課題（RC造3階建店舗併用住宅）					
6	作図演習		参考課題（RC造3階建店舗併用住宅）、1・2・3階平面図、断面図の表現と描き方、及び時間管理と方法。					
7	作図演習		参考課題（RC造3階建店舗併用住宅）、立面図と仕上表の表現と描き方、及び時間管理と方法。					
8	検討会		作品評価検討会 担当講師による客観的評価と自己評価の差異を認識することを目的とする。					
9	エスキス演習 3		参考課題（RC造2階建 小都市に建つ美術館）					
10	作図演習		参考課題（RC造2階建 小都市に建つ美術館）、1・2階平面図、断面図の表現と描き方、及び時間管理と方法。					
11	作図演習		参考課題（RC造2階建 小都市に建つ美術館）、立面図と仕上表の表現と描き方、及び時間管理と方法。					
12	検討会		作品評価検討会 担当講師による客観的評価と自己評価の差異を認識することを目的とする。					
13	卒業設計 1		調査・研究による設計コンセプト800字→最終400字において準備及び模型製作。					
14	卒業設計 2		調査・研究による設計コンセプト800字→最終400字において完成及び模型製作。					
15	卒業設計 3		各階平面図作成及び模型製作。⇒建築CADへ（各階平面図・立面図・断面図）					
1回配当時間		8時間	4コマ					
使用教科書		詳解 建築士 過去7年 問題集、名作住宅で学ぶ建築製図、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築C A D実習Ⅱ		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人邸を中心とした設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	構造の異なる各種図面を、迅速正確に作図する能力と創造性を養成する。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	復習 J w C A D		基準線から平面図作成までの流れを復習 属性管理の重要性を認識する					
2	図面編集編集設計		マンションバリエーションの課題					
3	図面編集リフォーム		バリアフリーの知識を活かした住宅改修					
4	図面編集外構設計		外構の寸法を知る					
5	ディテールの製図（Ⅰ）		建具寸法の知識と建具の表し方 部品を使用しないで納まりを考える					
6	ディテールの製図（Ⅱ）		階段詳細図と法知識 直列、折り返し、回り階段					
7	ディテールの製図（Ⅲ）		屋根 陸屋根、瓦屋根					
8	住宅の設計（Ⅰ）		木造2階建住宅 配置図 家族構成、敷地条件、法知識					
9	住宅の設計（Ⅱ）		木造2階建住宅 平面図 プランニングと方位学					
10	住宅の設計（Ⅲ）		木造2階建住宅 平面図 平面図の見直し、開口部のチェック					
11	住宅の設計（Ⅳ）		木造2階建住宅 断面図 高さ方向の寸法押さえ、屋根の押さえ					
12	住宅の設計（Ⅴ）		木造2階建住宅 立面図 デザインの観点からみた立面図の作成					
13	住宅の設計（Ⅵ）		木造2階建住宅 各部の整合性確認、図面修正					
14	住宅の設計（Ⅶ）		木造2階建住宅 印刷、パネル作成					
15	住宅の設計（Ⅷ）		木造2階建住宅 講評、まとめ					
1回配当時間		4時間	2コマ					
使用教科書		建築CAD検定試験公式ガイドブック、建築CAD検定試験問題集、ドリルで学ぶJW-cad、実践ドリルで学ぶOffice活用術 演習問題 173題、エスキスってなに？						

SYLLABUS (前期)

授業科目	インテリアデザイン実習		年次	2 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として企画・設計及び監理または店舗・オフィス等のインテリアデザイン・設計及び監理に関する実務経験を有す。							
教育目標	コーディネーションボードを作成して、プレゼンテーションを行う等、インテリアの総合技能を習得させる。また、設計製図・C A D等と連携して卒業作品を制作させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	演習課題01-a		平面図作成のための各種基本モジュール寸法の学習、及びプラン検討のための基礎知識を学ぶ					
2	演習課題01-a		建築図の読み取り練習と、設計条件をプロットする手法を学ぶ					
3	演習課題01-a		平面図作成練習と、より自然に見える描き方を習得する家具図の描き方を学ぶ					
4	演習課題01-a		平面から立体への変換と、詳細描写の練習					
5	演習課題01-a		マテリアルの種類とその特徴の学習					
6	立体図の検討（1）		アクソメ図についての学習 作図練習の手順を習得し、正確な作図ができるようにする					
7	演習課題01-b		平面からアクソメ図への変換と詳細描写の練習					
8	立体図の検討（2）		一点透視パース図についての学習 作図練習の手順を習得し、正確な作図ができるようにする					
9	演習課題01-c		平面から一点透視パース図への変換と詳細描写の練習					
10	演習課題02		パース図の基となる重要なグリッドフレームの作成を、平面サイズに合わせて自分でできるようになる					
11	演習課題02		一点透視図中の二点透視図の作図手法のマスター 自然な表現のための工夫と練習					
12	演習課題02		階段など傾きがある物の表現の仕方と注意点の学習・作図習得					
13	演習課題03		問題の読み取り方と要求事項の分析をし、検討を行う 複数の平面計画の作成を行い、それらの比較検討によりそれぞれの特徴をつかむ					
14	演習課題03		問題文から読み取れる必要とされるキッチンプランの計画を行う 立体的な空間表現を行う					
15	演習課題03		プランに合わせた詳細検討を行い、その空間の立体図の作成を行う 計画案の説明と特徴をプレゼンテーションする					
1 回配当時間		4 時間	2 コマ					
使用教科書		インテリアコーディネーター 合格テキスト、インテリアコーディネーター1次試験過去問題徹底研究 上巻下巻						